

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	帝京科学大学
設置者名	学校法人帝京科学大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名		夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
				全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
生命環 境学部	生命科学科	生命・健康 コース	夜・ 通信	4	0	16	20	13		
		生命コース	夜・ 通信	4	0	10	14	13		
		臨床工学コース	夜・ 通信	2	0	21	23	13		
		自然環境学科（千住）		夜・ 通信	2	0	14	16	13	
		自然環境学科（東京西）		夜・ 通信	4	0	15	19	13	
		アニマルサ イエンス学 科	動物看護福祉コース	夜・ 通信	2	0	53	55	13	
	アニマルサイエンスコース アニマルセラピーコース 野生動物コース		夜・ 通信	4	0	20	24	13		
医療科 学部	理学療法学科		夜・ 通信	4	0	26	30	13		
	作業療法学科		夜・ 通信	4	0	12	16	13		
	柔道整復学科		夜・ 通信	4	0	16	20	13		
	東京理学療法学科		夜・ 通信	2	0	36	38	13		
	東京柔道整復学科		夜・ 通信	2	0	19	21	13		
	看護学科		夜・ 通信	4	0	20	24	13		
	医療福祉学科		夜・ 通信	4	0	18	22	13		
教育人 間科学 部	こども学 科	小学校・幼稚園教諭コース	夜・ 通信	4	0	16	20	13		
		幼稚園教諭・保育士コース	夜・ 通信	4	0	20	24	13		

教育人間科学部	幼児保育学科		夜・通信	4	0	15	19	13	
	学校教育学科	小学校コース	夜・通信	4	0	14	18	13	
		中高理科コース	夜・通信	4	0	13	17	13	
		中高保健体育コース	夜・通信	4	0	13	17	13	
		国際英語コース	夜・通信	4	2	8	14	13	
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.ntu.ac.jp/tust/information/course-subject/index.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	帝京科学大学
設置者名	学校法人帝京科学大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.ntu.ac.jp/tust/soshiki/yakuin.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	上野原市教育委員 ／真福寺住職法泉寺 兼務住職	2018. 6. 26 ～ 2022. 6. 25	財務及び地域連携 活動への助言
非常勤	帝京医学技術専門学校 副校長／なし	2018. 6. 26 ～ 2022. 6. 25	医療技術関係活動 への助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	帝京科学大学
設置者名	学校法人帝京科学大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)については、</p> <p>①教務部長、学生部長、学部長、学科長等を構成員とし、教育課程及び学生に関する事項を審議する教務・学生委員会で内容を検討し、すべての科目共通の記入要領を作成している。</p> <p>②前年度1月中旬に、全教員に新年度のWeb記入要領を示し、全開講予定科目のシラバス執筆及び登録を依頼している。</p> <p>③登録されたシラバスは、記入要領に従って記入されているか、他の教員による第三者チェックを行い、加筆修正し確定している。</p> <p>④確定したシラバスは、原則として前年度3月末までに学生、教職員が学内教務システム(CampusSquare)から閲覧できるようにし、本学ホームページにおいても学外向けにトップページからシラバスの検索ができるようにして公表している。</p> <p>シラバスの主な記載内容は以下のとおりである。</p> <p>【授業の概要】授業の意義、概要を記載する。実務経験のある教員等による授業科目については、どのような実務経験を持つ教員がどのような授業を行うのかを併せて記載する。</p> <p>【科目に関連する実務経験と授業への活用】科目に関連する実務経験があり、それを活用する場合は記載する。</p> <p>【到達目標】ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、学生が授業を履修することで得られる成果について記載する。</p> <p>【計画・内容】15回の授業内容を記載する。実務経験のある教員に関しては職名等が分かるように記載する。</p> <p>【授業の進め方】講義、演習、実験、実習等の授業形態を記載する。アクティブラーニングを授業方法として取り入れる場合は、積極的に記載する。</p> <p>【能動的な学びの実施】発見学修、問題解決学修、体験学修、調査学修、ディベート、グループディスカッション、グループワークなどの能動的な学び(アクティブラーニング)を授業方法とする場合は記載する。</p> <p>【授業時間外の学修】授業時間外に必要な予習や復習の内容と目安時間を記載する。</p> <p>【教科書・参考書】教科書・参考書の著者、書籍名、出版社を記載する。</p> <p>【成績評価方法と基準】成績評価は定期試験のみならず、小テスト、課題レポート、授業での発表内容など多様な方法で行うよう推奨し、複数項目で評価する場合は評価比率を記載する。成績評価基準は、学則及び学生便覧で統一的に示されているので、シラバスには記載していない。</p> <p>【課題等に対するフィードバック】課題等(レポートや小テスト等)フィードバックの方法について記載する。</p> <p>【オフィスアワー】学生からの質問、指導可能なスケジュールを記載する。</p> <p>【留意事項】他の科目との関連性など、これまでの欄で記載できなかった情報を記載する。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://camps-web.ntu.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4301000-flow</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学修成果の成績評価及び単位認定に関しては、学則及び履修規則において、

- ①学生が授業科目を履修した場合には成績の評価を行い、合格者に対して所定の単位を与えること
- ②成績評価は、試験、論文、報告書、その他によって行うこと
- ③成績の評価は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とすること。ただし、卒業研究、フレッシュセミナー、基礎ゼミ及び一部の実習の成績は、合格・不合格で表すこと。
- ④履修方法及び卒業に必要な単位数について学科ごとに定める旨を、規定している。成績評価基準については、学生便覧において、秀は100～90、優は89～80、良は79～70、可は69～60、不可は59以下、合は合格、否は不合格と、明確に示している。

成績評価の方法については、シラバスの項目【成績評価方法と基準】の記入要領においても、成績評価は定期試験のみならず、小テスト、課題レポート、授業での発表内容など、多様な方法を組み合わせることを推奨し、評価方法ごとに評価比率を記載することとしている。学生に対しては、シラバスに記載した方法で評価を実施し、学生便覧に記載した成績評価基準により成績評価することを周知している。特に、卒業研究については、実施している学科ごとに評価の判断基準を設け、年度当初に教務・学生委員会に提出するとともに履修学生に周知し、その判断基準により研究発表及び卒業論文を審査し、各学科会議で合否を判定している。

学修意欲の把握については、出席状況や授業での態度で判断し、履修規則において欠席が3分の1を超えた場合は定期試験の受験資格を失うことと規定し、厳格に対応している。

以上により、学修成果を厳格かつ適正に評価し単位を付与している。卒業に必要な単位を修得した学生については、学科の卒業判定会議でディプロマ・ポリシーを満たしているかを審議し卒業候補者を確定している。その後、教授会の議を経て、学長が最終的に卒業を認定し、学位を授与している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

2017年度からGPA制度を導入し、学期、学年および累積のGPAを算出し、各学生にWeb上の教務システム内で閲覧できるようにするとともに、希望者には成績通知表への記載を行っている。秀：100～90点、優：89～80点、良：79～70点、可：69～60点、不可：59以下とし、それぞれのグレード・ポイント(GP)は、秀=4、優=3、良=2、可=1、不可=0と定めている。編入学生等の認定科目や可否のみで判定する科目を除いたすべての科目を、GPAの対象科目としている。学期、年度または在学全期間に履修登録した対象科目のGPと当該科目の単位数を掛けた値の総和を、当該期間に履修登録した対象科目の単位総数で除した値を、それぞれ学期GPA、年度GPAまたは通算GPAとしている。

なお、GPA制度の概要、目的、算出方法などの詳細は、学生便覧で周知するとともに大学ホームページで公表している。

2018年度からは、学科、学年ごとのGPAによる初年度学生の成績分布を作成し、成績状況の把握を行っている。成績分布は教務システムやホームページで公表し、各学生に周知している。

なお、成績順位やGPAの算出方法は全学共通であり、全学部で同一の方法で成績の分布状況の把握を行っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.ntu.ac.jp/campus-life/record.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

建学の精神、大学の基本理念を踏まえ、大学全体のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、各学部及び各学科のディプロマ・ポリシーを策定している。

大学全体のディプロマ・ポリシーにおいては、各学科の卒業要件単位以上を修得し、更に学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身につけていると認められる者に学士学位を授与する旨を定めている。

大学全体のディプロマ・ポリシーを踏まえ

【生命環境学部】のディプロマ・ポリシーにおいては、生命の尊厳について実践的に深く学び、地球環境に関する建設的な問題意識を持った中堅技術者、研究者等を育成し社会に送り出すことにより、持続可能な社会の発展に寄与する。この目的に添って設定された各学科の卒業要件を満たし、学科の目標とする人間像を身につけた者に学士号を授与する旨を定めている。

【医療科学部】のディプロマ・ポリシーにおいては、専門分野における知識と技能を修得し、他業種と適切な連携を構築しつつ、医療・福祉・介護領域における様々な問題や状況に適切に対応できる実践力を持つことである。そのためには、医療人として、正しい倫理観に基づき人の生命・尊厳を尊重し、人々の健康の維持と増進など社会的ニーズに貢献する自覚と責任感を持つのみならず、他の人との交流の基礎となるコミュニケーション能力や協調性など社会人として必要なスキルを身に着けていることが基本である。また、その専門分野が成立した経緯や歴史を顧みるとともに、日頃から現代社会に目を向け、地域や国内外で生じている医療科学分野での問題点に関心を示す感性も重要である。さらに、医療人として自己向上するためには、常に、多視的思考力と創造的探究心を持ち、科学的根拠に基づいた実践を行う中で、自らの能力や行動をその都度客観的に評価する謙虚さと生涯学び続ける熱意とが必要である旨を定めている。

【教育人間科学部】のディプロマ・ポリシーにおいては、自然と人間の共生を深く理解し、科学的な想像力と豊かな感性・子どもを慈しむ温かい心を持ち実践的指導力のある教育的指導者を社会に送り出すことにより、未来社会を担う子ども達の教育に貢献する。この目的に添って設定された各学科の卒業要件を満たし、学科の目標とする人間像を身につけた者に学士号を授与する旨を定めている。

各学科のディプロマ・ポリシーにおいては、大学全体、各学部のディプロマ・ポリシーを踏まえ

- ①知識、理解（学科として専攻する学問分野で身につけておくべき内容）
- ②汎用的技能（学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能）
- ③態度・志向性（市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性）
- ④総合的な学習経験と創造的思考力（学科として育てたい人間像）

の項目ごとに各学科で内容を定めている。

ディプロマ・ポリシーについては、ホームページで公表するとともに学生には学生便覧に掲載し周知している。

以上、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、各学科においては卒業要件単位以上を修得し学科の目標とする人間像を身につけているかを、学科の卒業判定会議で審査し卒業候補者を確定している。その後、教授会の議を経て、学長が最終的に卒業を認定し、学位を授与している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.ntu.ac.jp/tust/information/diploma.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	帝京科学大学
設置者名	学校法人帝京科学大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ntu.ac.jp/tust/zaimu/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.ntu.ac.jp/tust/zaimu/index.html
財産目録	https://www.ntu.ac.jp/tust/zaimu/index.html
事業報告書	https://www.ntu.ac.jp/tust/zaimu/index.html
監事による監査報告(書)	https://www.ntu.ac.jp/tust/zaimu/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:) 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 学校法人帝京科学大学中期目標・計画 対象年度: (2017年度~2021年度))
公表方法: https://www.ntu.ac.jp/tust/hyouka/index.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.ntu.ac.jp/tust/hyouka/index.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.ntu.ac.jp/tust/hyouka/index.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法： https://www.ntu.ac.jp/tust/purpose/index.html ）
<p>(概要)</p> <p>学則第 1 章第 1 条において、「本学は教育基本法に基づき、広く知識を授け人格の陶冶を図り、知的及び応用的能力を展開させると共に、深く専門の学術を教授・研究し、国際的視野に立って、日本国の発展に貢献できる有為な人材を養成することを目的とする。」と規定し、各学部及び各学科の目的に関する規則において 3 学部 13 学科の人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を定めている。</p> <p>【生命環境学部】は、生命・環境・情報・医療の分野で専門的な知識と技術を教授し、知・情・意の均整のとれた教育を通して人格の陶冶を図り、実践的及び応用的能力を育成するとともに、深く専門の学術を研究し、国際的視野に立って、我が国の発展に貢献できる高度な専門知識と実践的な問題解決能力を備えた人材を養成することを目的としている。</p> <p>【医療科学部】は、理学療法学、作業療法学、柔道整復学、看護学及び医療福祉学において幅広い一般教養教育と高度な専門教育を通して最新の知識・技術を提供し、これらが高い専門性をもった研究の成果を踏まえた教育方法で施す。これらによって、学生の創造的能力を促進させ、専門家としての高度に知的、道徳的、応用的な業務能力を習得させることを目的としている。</p> <p>【教育人間科学部】は、次世代を担う幼児・児童・生徒の健全な生きる力と感受性を育み、豊かな人間社会の形成に寄与する教育的指導者を養成する。この目的を達成するため、高度な専門的知識と実践的スキルを教授するとともに、人間の発達過程と生活環境に照らして、豊かな人間社会の形成の条件を科学的に解明し、これを実現する実践的手法を研究開発することを目的としている。</p> <p>学科においては、学部の目的を踏まえ、各学科の特性を取り入れた目的を定めている。</p>
卒業の認定に関する方針
（公表方法： https://www.ntu.ac.jp/tust/information/diploma.html ）
<p>(概要)</p> <p>建学の精神、大学の基本理念を踏まえ、大学全体及び 3 学部 13 学科においてディプロマ・ポリシーを定めホームページで周知・公表している。</p> <p>大学全体のディプロマ・ポリシーにおいては、各学科の卒業要件単位以上を修得し、更に学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身につけていると認められる者に学士学位を授与する旨を定めている。大学全体のディプロマ・ポリシーを踏まえ</p> <p>【生命環境学部】のディプロマ・ポリシーにおいては、生命の尊厳について実践的に深く学び、地球環境に関する建設的な問題意識を持った中堅技術者、研究者等を育成し社会に送り出すことにより、持続可能な社会の発展に寄与する。この目的に添って設定された各学科の卒業要件を満たし、学科の目標とする人間像を身につけた者に学士号を授与する旨を定めている。</p> <p>【医療科学部】のディプロマ・ポリシーにおいては、専門分野における知識と技能を修得し、他業種と適切な連携を構築しつつ、医療・福祉・介護領域における様々な問題や状況に適切に対応できる実践力を持つことである。そのためには、医療人として、正しい倫理観に基づき人の生命・尊厳を尊重し、人々の健康の維持と増進など社会的ニーズに貢献する自覚と責任感を持つのみならず、他の人との交流の基礎となるコミュニケーション能力や協調性など社会人として必要なスキルを身につけていることが基本である。また、その専門分野が成立した経緯や歴史を顧みるとともに、日頃から現代社会に目を向け、地域</p>

や国内外で生じている医療科学分野での問題点に関心を示す感性も重要である。さらに、医療人として自己向上するためには、常に、他視的思考力と創造的探究心を持ち、科学的根拠に基づいた実践を行う中で、自らの能力や行動をその都度客観的に評価する謙虚さと生涯学び続ける熱意とが必要であることを各学科の共通目標として定めている。

【教育人間科学部】のディプロマ・ポリシーにおいては、自然と人間の共生を理解し、科学的な想像力と豊かな感性・子どもを慈しむ温かい心を持ち実践的指導力のある教育的指導者を社会に送り出すことにより、未来社会を担う子ども達の教育に貢献する。この目的に添って設定された各学科の卒業要件を満たし、学科の目標とする人間像を身につけた者に学士号を授与する旨を定めている。

各学科のディプロマ・ポリシーにおいては、大学全体、各学部のディプロマ・ポリシーを踏まえ

- ①知識、理解（学科として専攻する学問分野で身につけておくべき内容）
- ②汎用的技能（学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能）
- ③態度・志向性（市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性）
- ④総合的な学習経験と創造的思考力（学科として育てたい人間像）

の項目ごとに各学科で内容を定めている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.ntu.ac.jp/tust/information/curriculum.html>）

（概要）

大学全体及び3学部13学科においてカリキュラム・ポリシーを定めホームページで周知・公表している。カリキュラム・ポリシーは、建学の精神に基づき、各学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、各学科において、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を編成、実施し、教育評価を行うことを方針としている。

- ・教育内容（授業科目の編成方針等）
- ・教育方法（授業方法、専門科目と実習との整合性・連続性、国家試験対策、教員就職対策等）
- ・教育評価（到達度の確認、卒業論文の扱い等）

【生命環境学部】は、生命環境分野の諸課題について深い見識を有する人材を育成するために

1. 実践的な学修を可能とする実験実習を重視し、大学内に閉じない教育課程を編成する
2. 基礎となる教養教育を幅広く学べる共通教育を充実する
3. 専門領域を極めるとともに、他学科・他学部履修制度により学際的な学修を可能とする
4. 学生が自ら問題を発掘し取り組むことができる科目を設定する
5. 各学科・コースにおいて教養科目、専門基礎科目、専門科目の履修基準数を示し、これらの科目を系統的に配置したモデルを提示することにより、学修計画の指針とすることとしている。

【医療科学部】は、将来の専門職としての医療人となるために、専門基礎科目・専門科目から専門知識と技能を学ぶのみならず、一般教養としての共通科目も学び、知性と感性の調和のとれた豊かな人間性を得ることを目指す。また、人の「いのち」を生物学的観点から科学的に促える重要性和、精神や生命の尊厳の観点から促える重要性を学ぶ。その方法は、講義、演習、実習などを組み合わせ集団で行う系統的授業と、少人数教育やアクティブ・ラーニングなどの個別授業とに分けられる。系統的授業では、自主的に学ぶ姿勢を自覚し実行させるため、必ず予習・復習を行うことを徹底させる。また個別授業では、医療科学全般に関する問題点の調査・議論を通して、問題解決力、表現力、コミュニケーション能力などを養うことに重点を置く。将来の医療人となるためには、まず国家資格を得ることが前提であるため、知識や技能を国家資格取得水準以上に高めることを目標に、カリキュラムを構築し、教育評価を行うこととしている。

【教育人間科学部】は、社会を率先して牽引する教育的指導者を育成するために

1. 実験、実習を重視した教育課程の編成により実践的な教育的指導者を育成する
2. 地域社会との連携を取り入れた教育課程を編成する

3. 正課外の教育的社会活動に配慮し、大学外での学修活動を評価する
4. 自らの専門分野に閉じず、複数の分野を学び、資格取得につながるプログラムを提供する
5. 各学科・コースにおいて教養科目、専門基礎科目、専門科目の履修基準数を示し、これらの科目を系統的に配置したモデルを提示することにより、学修計画の指針とすることとしている。

学科においては、学部のカリキュラム・ポリシーを踏まえ、各学科の特性を取り入れた教育課程を編成することとしている。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ntu.ac.jp/exam/policy/index.html>)

大学ガイドブック、入学試験要項

(概要)

以下の3つの媒体から、情報が広く行き届くように公表を行っている。

- 1、公式ホームページ：入試・入学案内ページに、入学受入方針（アドミッションポリシー）ページを作成し、建学の精神とともにアドミッションポリシーを掲載。
- 2、公式ガイドブック：学部紹介ページに学科ごとのアドミッションポリシーを掲載。建学の精神についても、大学の沿革ともに掲載している。
- 3、入学試験要項：入学受入方針（アドミッションポリシー）ページを作成し、建学の精神とともにアドミッションポリシーを掲載。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.ntu.ac.jp/tust/information/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
生命環境学部	—	21人	15人	12人	5人	4人	57人
医療科学部	—	41人	22人	29人	15人	1人	108人
教育人間科学部	—	20人	13人	7人	10人	0人	50人
その他	—	9人	5人	5人	1人	0人	20人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		人					人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.ntu.ac.jp/research/kyoin/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>FD委員会(委員長：副学長)を置き、教育の質を保証することを目的として、教員の教育力の向上ならびに授業の改善に取り組んでいる。</p> <p>FD委員会では、原則としてすべての授業に対して、受講学生に対する授業改善アンケートを毎学期実施している。加えて、退学者や休学者数の削減に向けた改善点や方策を検討、実行する学生支援のためのPDCAサイクルを学科単位で実施し、その経過をFD委員会に報告している。</p> <p>FD委員会では、各学科から提出される、授業改善アンケートの結果と授業改善案、ならびに学生支援のためのPDCAの報告を踏まえ、全学的な授業改善、教員資質向上ならびに学生支援体制の点検・評価、ならびに改善に関する検討を行っている。また、授業力向上に向けたFD研修会を開催し、全教員への参加を促している。2019年度は、合理的配慮を含めた学習支援やアクティブラーニング等に関する研修会を4回開催したが、2020年度はコロナウイルスの影響で実施せず。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生命環境学部	490人	449人	91.6%	2000人	1918人	95.9%	20人	1人
医療科学部	450人	459人	102%	1850人	1784人	96.4%	10人	2人
教育人間科学部	280人	242人	86.4%	1100人	1129人	102.6%	5人	1人
合計	1220人	1150人	94.3%	4950人	4831人	97.6%	35人	4人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生命環境学部	445 人 (100%)	13 人 (3%)	323 人 (73%)	109 人 (24%)
医療科学部	397 人 (100%)	2 人 (1%)	269 人 (68%)	126 人 (31%)
教育人間科学部	211 人 (100%)	2 人 (1%)	163 人 (77%)	46 人 (22%)
合計	1053 人 (100%)	17 人 (1%)	755 人 (72%)	281 人 (27%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 帝京科学大学大学院、東京医科歯科大学大学院、山梨大学大学院、静岡大学大学院、農林水産省、山梨県庁、神奈川県庁、警視庁、日本全薬工業株式会社、イオンペット株式会社、株式会社東武ストア、クボタメンブレン株式会社、株式会社マイナビ、東京都教育委員会、東京大学医学部附属病院、山梨県立中央病院、三井記念病院				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
生命環境学部	510人 (100%)	423人 (82.9%)	36人 (7.1%)	48人 (9.4%)	3人 (0.6%)
医療科学部	483人 (100%)	365人 (75.6%)	34人 (7%)	70人 (14.5%)	14人 (2.9%)
教育人間科学部	245人 (100%)	201人 (82%)	12人 (4.9%)	32人 (13.1%)	0人 (0%)
合計	1238人 (100%)	989人 (79.9%)	82人 (6.6%)	150人 (12.1%)	17人 (1.4%)
(備考) 2107年度入学生 その他は転出者					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) 授業計画（シラバス）については</p> <p>①教務部長、学生部長、学部長、学科長等を構成員とし、教育課程及び学生に関する事項を審議する教務・学生委員会で内容を検討し、すべての科目共通の記入要領を作成している。</p> <p>②前年度1月中に、全教員に新年度のWeb記入要領を示し、全開講予定科目のシラバス執筆及び登録を依頼している。</p> <p>③登録されたシラバスは、記入要領に従って記入されているか、他の教員による第三者チェックを行い、加筆修正し確定している。</p> <p>④確定したシラバスは、原則として前年度3月末までに学生、教職員は学内教務システム（CampusSquare）で閲覧できるようにし、本学ホームページにおいても学外向けにトップページからシラバスの検索ができるようにして公表している。</p> <p>シラバスの主な記載内容は以下のとおりである。</p> <p>【授業の概要】 授業の意義、概要を記載する。実務経験のある教員等による授業科目については、どのような実務経験を持つ教員がどのような授業を行うのかを併せて記載する。</p> <p>【科目に関連する実務経験と授業への活用】 科目に関連する実務経験があり、それを活用する場合は記載する。</p> <p>【到達目標】 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、学生が授業を履修することで得られる成果について記載する。</p> <p>【計画・内容】 15回の授業内容を記載する。実務経験のある教員に関しては職名等が分かるように記載する。</p> <p>【授業の進め方】 講義、演習、実験、実習等の授業形態を記載する。アクティブラーニングを授業方法として取り入れる場合は、積極的に記載する。</p> <p>【能動的な学びの実施】 発見学修、問題解決学修、体験学修、調査学修、ディベート、グループディスカッション、グループワークなどの能動的な学び（アクティブラーニング）を授業方法とする場合は記載する。</p> <p>【授業時間外の学習】 授業時間外に必要な予習や復習の内容と目安時間を記載する。</p> <p>【教科書・参考書】</p>
--

教科書・参考書の著者、書籍名、出版社を記載する。

【成績評価方法と基準】

成績評価は定期試験のみならず、小テスト、課題レポート、授業での発表内容など多様な方法で行うよう推奨し、複数項目で評価する場合は評価比率を記載する。成績評価基準は、学則及び学生便覧で統一的に示されているので、シラバスには記載していない。

【課題等に対するフィードバック】

課題等（レポートや小テスト等）フィードバックの方法について記載する。

【オフィスアワー】

学生からの質問、指導可能なスケジュールを記載する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

学修成果の成績評価及び単位認定に関しては、学則及び履修規則において

- ①学生が授業科目を履修した場合には成績の評価を行い、合格者に対して所定の単位を与えること
- ②成績評価は、試験、論文、報告書、その他によって行うこと
- ③成績の評価は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とすること。ただし、卒業研究、フレッシュセミナー、基礎ゼミ及び一部の実習の成績は、合格・不合格で表すこと
- ④履修方法及び卒業に必要な単位数について学科ごとに定める旨を、規定している。成績評価基準については、学生便覧において、秀は100～90、優は89～80、良は79～70、可は69～60、不可は59以下、合は合格、否は不合格と、明確に示している。

成績評価の方法については、シラバスの項目【成績評価方法と基準】の記入要領においても、成績評価は定期試験のみならず、小テスト、課題レポート、授業での発表内容など、多様な方法を組み合わせることを推奨し、評価方法ごとに評価比率を記載することとしている。学生に対しては、シラバスに記載した方法で評価を実施し、学生便覧に記載した成績評価基準により成績評価することを周知している。特に、卒業研究については、実施している学科ごとに評価の判断基準を設け、年度当初に教務・学生委員会に提出するとともに履修学生に周知し、その判断基準により研究発表及び卒業論文を審査し、各学科会議で可否を判定している。

学修意欲の把握については、出席状況や授業での態度で判断し、履修規則において欠席が3分の1を超えた場合は定期試験の受験資格を失うことと規定し、厳格に対応している。

以上により、学修成果を厳格かつ適正に評価し単位を付与している。

卒業認定に当たっては、大学全体のディプロマ・ポリシーを踏まえ

【生命環境学部】のディプロマ・ポリシーにおいては、生命の尊厳について実践的に深く学び、地球環境に関する建設的な問題意識を持った中堅技術者、研究者等を育成し社会に送り出すことにより、持続可能な社会の発展に寄与する。この目的に添って設定された各学科の卒業要件を満たし、学科の目標とする人間像を身につけた者に学士号を授与する旨を定めている。

【医療科学部】のディプロマ・ポリシーにおいては、専門分野における知識と技能を修得し、他業種と適切な連携を構築しつつ、医療・福祉・介護領域における様々な問題や状況に適切に対応できる実践力を持つことである。そのためには、医療人として、正しい倫理観に基づき人の生命・尊厳を尊重し、人々の健康の維持と増進など社会的ニーズに貢献する自覚と責任感を持つのみならず、他の人との交流の基礎となるコミュニケーション能力や協調性など社会人として必要なスキルを身に着けていることが基本である。また、その専門分野が成立した経緯や歴史を顧みるとともに、日頃から現代社会に目を向け、地域や国内外で生じている医療科学分野での問題点に関心を示す感性も重要である。さらに、医療人として自己向上するためには、常に、多視的思考力と創造的探究心を持ち、科学的根拠に基づいた実践を行う中で、自らの能力や行動をその都度客観的に評価する謙虚さと、生涯学び続ける熱意とが必要であることを各学科の共通目標として定めている。

【教育人間科学部】のディプロマ・ポリシーにおいては、自然と人間の共生を深く理解し、科学的な想像力と豊かな感性・子どもを慈しむ温かい心を持ち実践的指導力のある教育的指導者を社会に送り出すことにより、未来社会を担う子ども達の教育に貢献する。この目的に添

て設定された各学科の卒業要件を満たし、学科の目標とする人間像を身につけた者に学士号を授与する旨を定めている。

各学科のディプロマ・ポリシーにおいては、大学全体、各学部のディプロマ・ポリシーを踏まえ

- ①知識、理解（学科として専攻する学問分野で身につけておくべき内容）
- ②汎用的技能（学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能）
- ③態度・志向性（市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性）
- ④総合的な学習経験と創造的思考力（学科として育てたい人間像）

の項目ごとに各学科で内容を定めている。

以上、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、各学科においては卒業要件単位以上を修得し学科の目標とする人間像を身につけているかを、学科の卒業判定会議で審査し卒業候補者を確定している。その後、教授会の議を経て、学長が最終的に卒業を認定し、学位を授与している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
生命環境学部	生命科学科	124単位	⑦・無	単位
	自然環境学科	124単位	⑦・無	単位
	アニマルサイエンス学科	124単位	⑦・無	単位
医療科学部	東京理学療法学科	124単位	⑦・無	単位
	東京柔道整復学科	124単位	⑦・無	単位
	看護学科	124単位	⑦・無	単位
	医療福祉学科	124単位	⑦・無	単位
	理学療法学科	124単位	⑦・無	単位
	作業療法学科	124単位	⑦・無	単位
	柔道整復学科	124単位	⑦・無	単位
教育人間科学部	幼児保育学科	124単位	⑦・無	単位
	学校教育学科	124単位	⑦・無	単位
	こども学科	124単位	⑦・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.ntu.ac.jp/tust/campus/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
生命環境 学部	アニマル サイエ ンス学科	860,000 円	260,000 円	420,000 円	施設設備整備費 実験実習費
	生命科学 科	860,000 円	260,000 円	420,000 円	施設設備整備費 実験実習費
	自然環境 学科	860,000 円	260,000 円	420,000 円	施設設備整備費 実験実習費
医療科学 部	東京理学 療法学科	960,000 円	260,000 円	770,000 円	施設設備整備費 実験実習費
	東京柔道 整復学科	960,000 円	260,000 円	770,000 円	施設設備整備費 実験実習費
	看護学科	860,000 円	260,000 円	770,000 円	施設設備整備費 実験実習費
	医療福祉 学科	780,000 円	260,000 円	257,000 円	施設設備整備費
	理学療法 学科	960,000 円	260,000 円	590,000 円	施設設備整備費 実験実習費
	柔道整復 学科	960,000 円	260,000 円	590,000 円	施設設備整備費 実験実習費
	作業療法 学科	960,000 円	260,000 円	590,000 円	施設設備整備費 実験実習費
教育人間 科学部	幼児保育 学科	780,000 円	260,000 円	280,000 円	施設設備整備費
	学校教育学科 (小学校・中 高理科・国際 英語コース)	780,000 円	260,000 円	280,000 円	施設設備整備費
	学校教育学科 (中高保健体 育コース)	780,000 円	260,000 円	370,000 円	施設設備整備費
	こども学 科	780,000 円	260,000 円	190,000 円	施設設備整備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では、教学を扱う教務・学生委員会、FD 委員会において学生の学修及び授業支援に関する方針・計画を立案し、実施推進することとしている。また、次の項目により学生の修学支援に取り組んでいる。</p> <p>①助言教員制度 専任の助教以上の教員が、担当する学生の学習、履修、成績、授業の出席状況に応じて必要な指導を定期的に行う。1 年次の必修科目の基礎ゼミ等を担当する。</p> <p>②SA (スチューデントアシスタント) ・TA (ティーチングアシスタント) の配置 実験・実習等の授業に関しては、補助員として SA ・TA を配置し授業の補助に当たっている。</p> <p>③オフィスアワー 教務システム上にオフィスアワーを設定し、学生へ公開しており、学修支援にも利用されている。</p> <p>④障がいのある学生への配慮 障がいのある学生に対しては、受験前に相談があった場合は、高等学校在学時の支援内容を把握するとともに希望学科の教員や職員が面談して事前に支援内容の検討を行い、入学</p>

後は受け入れ学科と教務課、東京西事務室、保健室及び総合学生支援センターの連携により支援している。

⑤総合教育センターによる学習ガイドブックの作成

学習ガイドブックを作成し、新入生に対し、授業の受け方、勉強方法など、大学での学び方を示している。

⑥図書館におけるサービス

授業で使用する教科書・参考書のデータを収集し、学修支援の強化に努めている。

⑦医療科学部における国家試験対策

ア 医学教育センターの設置

医療科学部においては、国家資格の取得を目指すことから、合格のために必要な基礎医学科目の修得のため、医学教育センターを設置し、最新の動向を踏まえ、アクティブラーニングを活用した実践的な国家試験対策を行っている。

イ 学習支援教員制度

学長が学習支援教員を委嘱し、履修状況がよくない学生を早期に発見し、学習支援教員及び助言教員を中心に学科教員全体で学習支援を行う体制を整えている。支援状況については、学長が出席する報告会で毎月報告されている。

⑧経済的支援

経済面の支援としては、独立行政法人日本学生支援機構の奨学金のほか、次の二つがある。

ア 帝京科学大学奨学金

学業、人物ともに優秀で家計急変により就学が困難であると認められたものに授業料の50%を減免する。

イ 帝京科学大学特待生制度

入試及び在学学生の成績が優秀なものに授業料等の一部を免除する。

⑨教育支援システム (CampasSquare)

学生自身の学籍、履修登録、取得単位数、成績、授業の出席情報、休講・教室変更情報、シラバス等が確認できる教育支援システムを整備し、学修に必要な情報を提供している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

就職戦略委員会、各学科、キャリア支援センターが連携し、学生のキャリア形成、就職活動の支援体制を整備している。

就職戦略委員会においては、就職戦略の立案及び実施を担い、教職員に就職支援の重要性を認識させ協力を仰いでいる。

各学科においては、低学年時からの基礎ゼミやキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲなどのキャリア形成のための科目を設けて実施するとともに、インターンシップなどの実習を行う前に職業人としての心構えなどを学習させている。

キャリア支援センターは、学生の就職及びキャリア形成のための支援に関する組織として、キャリアカウンセラー及び事務職員を配置し、学科と連携して、次の事業を実施している。

①個人面談 (現在はオンラインと対面方式の併用)

キャリアカウンセラーが面談し、本人の適性に合った進路を探り、エントリーシートや履歴書の添削、面接や論文の指導を行う。

②学内合同企業セミナー及び、学内業界セミナー

専門職種別に合計200社を超える企業、1月には約100社の一般企業を招聘し、学生に企業と接する機会を提供している。

③求人情報の提供

約20,000社の求人情報をウェブ上で参照できる環境を整備している。

なお、新宿サテライトオフィスで、卒業生の転職相談や職場の悩み相談も受け付けている。

④ガイダンスの実施

マナー講座、就職活動写真撮影会、インターンシップ対策講座等、就職及びインターンシップに関する講座を開催している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身の健康等については、助言教員、教務課、東京西事務室、保健室、総合学生支援センターが、相談内容に応じて連携を図りながら支援を行っている。特に、総合学生支援センターは、総合窓口としての機能も有し、心身の健康等の状況に応じて関係する教職員でチームを構成し、支援している。

①保健室

保健室には、保健師又は看護師を配置し外傷・疾病の応急措置を行うほか、心身の健康面の相談に当たっている。毎年4月に実施する健康診断時には総合学生支援センターと協力し、健康に関するアンケート調査を実施、全学生の健康状態や直近の疾病歴も把握し、学生の健康管理を行っている。

②総合学生支援センター・学生相談室

総合学生支援センターは、相談の総合窓口としての機能をはたし、相談内容により関係部署を紹介するとともに、インテーク（初期）面接を実施し、必要があれば併設している学生相談室につなげキャンパスカウンセラーによるカウンセリングを行っている。さらに、特別な支援等を必要とする学生に対する支援の専門部署として、関係部署と連携して個々に応じた支援を行うなど、支援を要する学生、相談ニーズのある学生の支援・サポートを行っている。

また、個別相談に応じるだけでなく、集団生活へ適応しづらい学生や一人になる時間をもちたい学生に対して居場所支援も実施するなど、多様な学生のニーズに応じることができる環境を作り、学生が安心して学修に励むことができるようきめ細かいサポートを行っている。

新入生に対しては、大学生活に関する困りごと調査を行い、相談の希望があれば面談を実施し、必要な対応を行うこととしている。

さらに、各学科に学生支援コーディネーターを配置し、学生支援の担当教員として、学科における調整や相談窓口（ハラスメント相談員）の業務を兼ね、学科内における支援の充実に寄与している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ntu.ac.jp/information/index.html>